

平成27年7月1日

都道府県医師会

感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長

小 森 貴

エボラ出血熱への感染があり得る患者の発生について

本日（7月1日）、静岡県内において、西アフリカ滞在歴があり、帰国後に発熱の症状を呈した患者（40代 男性）が確認され、厚生労働省よりプレスリリースがなされましたので取り急ぎ情報提供いたします。

当該男性は、6月24日までギニアに滞在し、30日に帰国後、検疫所において健康監視対象となっておりましたが、今朝に39度8分の発熱があったものであり、本人によればエボラ出血熱の患者とは接触はなかったということでもあります。また、マラリア迅速検査の結果は陽性としております。

現在、当該男性は、エボラ出血熱への感染の有無を確認するため、静岡県の医療機関に入院済みであり、患者の検体を国立感染症研究所（村山庁舎）に向けて搬送予定としております。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、郡市区医師会、関係医療機関等に対する周知方について、ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、本情報は7月1日14時30分時点の情報でありますことを申し添えます。

平成 27 年 7 月 1 日

【照会先】

健康局結核感染症課

感染症情報管理室長 宮川 昭二(内線 2389)

課長補佐 中谷祐貴子(内線 2373)

(代表電話) 03(5253)1111

(直通電話) 03(3595)2257

報道関係者 各位

エボラ出血熱への感染があり得る患者の発生について

本日、静岡県内において、西アフリカ滞在歴があり、帰国後に発熱の症状を呈した患者が確認されました。

この方については、6月30日に帰国後、検疫所において健康監視対象となっていました。

エボラ出血熱への感染の有無を確認するため、患者は既に静岡県の医療機関に入院済みであり、患者の検体を国立感染症研究所(村山庁舎)に向けて搬送予定です。

概要

- ①年代： 40 代
- ②性別： 男性
- ③国籍： 日本
- ④滞在国： ギニアに滞在(6月24日まで)、6月30日に帰国。
- ⑤症状： 7月1日朝に、39度8分の発熱。
- ⑥接触歴： 本人からの報告によればエボラ出血熱患者との接触はない。
- ⑦他の感染症の罹患の有無： マラリア迅速検査 陽性
- ⑧居住都道府県： 静岡県
- ⑨入院先医療機関の所在都道府県： 静岡県

国民の皆様へのメッセージ

- 疑似症患者は、まだ感染は確認されておらず、検査の結果、陰性となることも十分にあり得ます。
- エボラ出血熱は、発症段階で初めて感染力を持つとされています。そのため、本患者が搭乗していた飛行機に同乗していた乗客の感染リスクは極めて低いと考えられます。